

# 新しい時代 新文化運動と哲学

## 現世人間の起源と未来

『新文化運動』(1919)의 1부 1장 1절

前号に説明した幽体離脱という現象は想念の波動がやや静止しているようなとき、人の意識だけが覚醒して血を活動させるときに起こる一種の幻覚作用である。よく肉体離脱を通して靈的に修行するというのが、これは何の意味もないことである。従って、幽体離脱の体験を土台に天国や極楽の存在を力説しているのは根拠のない假説にすぎないのである。

但し、離脱者の心情が非常に平穩な状態においては異状能力を発揮することがある。例えば、遠方で起きる出来事を予知するとか、二人以上の離脱者が同一な状況にあるとか。これなどは離脱者の血の作用が清く澄んでいる状態で、自身から湧き出る想念の作用が全部無くなったときはテレビ—受信能力が高度に作用する。こういうときの血の作用は時空を超越し、実体そのものを受信することができるからである。

<span></span>
靈魂とは何か？
靈魂とは考え(思い)自体が即、靈である。父の思いと考えは父の靈であり、祖母の思いと考えは祖母の靈である。この故に靈は即、思いや考えであり、考えと思いは血の作用である。
だが、われわれの身体は自分だけの血で造成されているのではなく、近くは父母や祖先の血を受け継いでいるのをはじめ、人類の全ての祖先である神様の靈も入っているのである。
従って、人間の血の中には人類の最高祖先であるところのアダム・エバや、神様の血まで入っていることを判断できる。つまり、われわれの中にいる人類最高の祖先の心靈である“良心の神靈”＝神の心と血を回復す

ることこそが、われわれ人類の目標にならないければならない。

魂とは何か？
魂とは考えを主張する意識の焦点をさしてもものなのだ。即ち、考えを主張する“自我”という意識が即ち魂である。狂人のことを“魂が抜けた”というのもそのためである。
人間にはいろいろな考えと思いがあるが、いろいろな考えを支配するピラミッドの頂点の役割をするものがある。“自我”という意識は後天的な慾心の靈であり、これは血を腐らせる罪の靈であるから、われわれが常に捨てねばならぬ存在である。
“自我”という意識を捨てるには二つの道がある。その一つは“我”の意識を窮地に追い込ませて踏み潰してしまうか、もう一つは“我”という意識を捨てて、本来あるべき人間の根本的な意識に戻り、神の靈になることである。

本来の“我”を意識できないのは主体意識が他の意識と入れ替わったからで、狂った女が男の真似する場合は、男の意識が入れ替わったからである。
以前、死んだ義父の草鞋を真似する狂った嫁を見たことがある。そのお嫁さんは死んだ義父を真似するだけでなく、夫を自分の息子だと思っているのだ。狂った人の多くは身近の親戚か親しかった人でなければ敵であった人の真似をする例が多い。
人間は他人にいけない苦惱に陥っているか、世間に顔向けのできない恥辱を受けたとかのときに狂ってしまうのである。狂った人の主体靈の“我”の意思がひどい窮地に追い詰められたとか、到底堪えきれない状態におかれたとき、かれを支配していた主体靈の心が主導権を失くし下野することになる。そうなると血の中に内在していた靈

のうちでも強力な靈が、そのあとを占領するので狂人になるのである。

それに、狂った人には狂うようになる過程がある。自我意識も考えとして血の中にあって、自我だけでなく数多くの祖先たちの靈がウヨウヨしており、また、祖先だけでなく米国人の靈もロシア人の靈もあるのだ。それだけでなく、大気の中には各種の想念物質が含まれていて、その中にも米国人や日本人だけでなく色々な国人達の考えなどが入っているのである。このような靈物質を呼吸している人間の血の中には全ての靈が入って生きているのである。

氣違ひになったり、狂人になるのは“自我”意識が急激な衝撃を受けるか、予期せぬ驚愕で狂いだすのだ。また、はじめて他人の物を盗んでしまったとか、恥ずべき淫乱な罪を犯した良心の呵責に苦しんだあけく“我”の主体靈も堪え切れずグロッキーになれば死んだ人の靈が入って、いままでと違った行動をとるようになる。

そして、ある特定靈の行動だけすればまだしも、別の強い死靈がその靈を追い出し主体靈となり、また別の靈が入り込むというふうになるので、狂人の行動も言葉も確りできない支離滅裂であるのは、このように死靈たちが争って入れ替わるからである。

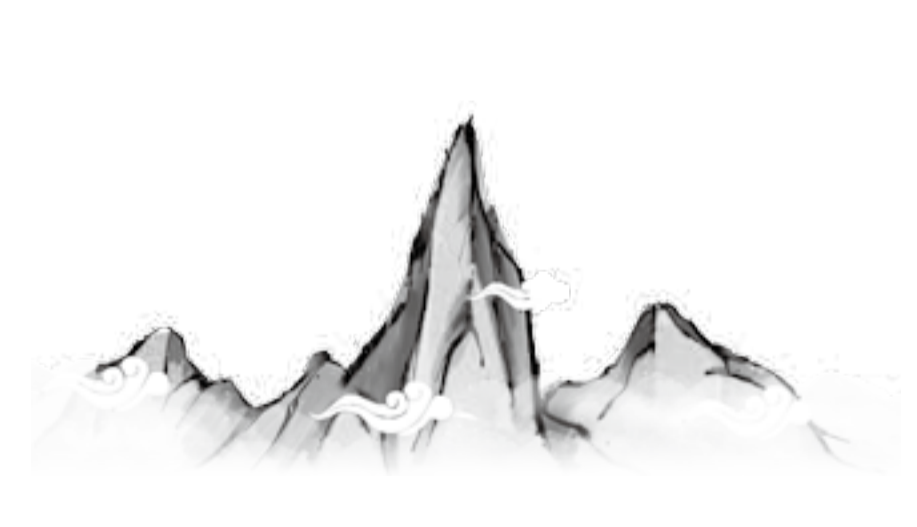
精神医学界では精神病としていろいろな方法で治療を施しているが、その根本原因はわかっていないというのが実状である。療養所で保養させるか、睡眠剤か神経安定剤を投薬して周囲に迷惑をかけないように保護するか、心靈科学的靈払いをしたりして、ほかに治療方法をもたないのである。狂った人を治すには、その人の主体靈を取り戻す手助けをしてあげなければならない。例えば、その人が日ごろ愛用していたも
---

のを持たせるとか、好きで親しくしていた人とたびたび接触するようにすれば、自我意識が力を得て自分の位置に戻るようになるのである。

靈肉一体説に就いて
人間は一つの存在である。靈・肉・または魂などに分けることは間違った考えである。人間は一つの人間であって決して靈だけが人間であり、肉体だけが人間であるというものではない。肉体だけの人間は死んでもない。したいには考えもなく血の作用も想念もない。人間が無知と無明の中で迷っているので死後の未知の世界に対する恐怖からいろいろと想像をめぐらしているに過ぎない。
靈魂と肉体は離れている二つの存在ではなく、一つである。あまりにも当然で単純なことをまともにとらえられずに、外郭だけをまわって真の人間の実態をつかんでいないのがいままでの学問であり、宗教であったと考えられる。
聖書には死んだ後に天国に行くのではなく、また、天国が天空にある宮殿のようなものではないことを明らかにしている。ルカによる福音書17：21“天国はここにある、あそこにあると言えるものではない。実はあなたがたのただ中にある”と判然と釘を打つてる。にも拘わらず、人間の目が悪魔の幻惑の中にいたので聖書の中の眞実が見出せなかったのであろう。
皆さんがまず知らなければならないことは、靈肉一体という事実である。靈肉一体を論せず靈肉分離を論ずることは非眞理であり、非聖書的な教えである。元來、聖書の御言

『新文化運動』(1919)の 1部 1章 2節

# 천운은 피할수 없으니 정도령을 만나 생명로를 찾아보소



말세의 일을 추산하여 알고자 할진대 두 사람이 서로 싸우는데 장(張)씨가 활을 쏘니 조(趙=二十九日疾走)씨가 하늘을 우리러 보고 풍곡하며 죽으리라. 원무심(怨無心)은 죽을 사(死)의 파자. 길을 잃고 방황하는 백성들이! 조씨와 장씨가 나왔다니 절단 낫네. 도를 찾는 군자들과 수도인(修道人)들이! 고장났네. 피란가자. 시대가 돌아가는 형세를 모르는 백성들이! 시운(時運)이 불행하여 병이 돌고 세상이 어지러울 것일세. 전국 곳곳에서 벌떼처럼 일어나는 가정(假鄭=가짜 정도령)들이! 지금이 어느 때인지도 모르고 시끄럽게 떠드느냐? 백면천사(白面天使)가 누구인지도 모르기 때문에 뜻한 바대로 되지 않자 결론엔 절망하게 됨일세. 흑비장군(黑鼻將軍)이 이씨의 일을 도우는 일로 나무의 가시를 베고 배어 이씨의 운을 열어가지만(을사까까지는 이씨의 운이 남아 있으므로 경자년에 망명하기까지 이씨를 괴

롭히는 자들을 제거하게 된다) 도끼로 으얏나무(柶)를 베는 것 또한 천운이니 하늘을 거역하는 자는 갈 길이 없느니라.

蓮花台上神明世界  연화대상신명세계 正道靈 정도령이오신다네 都是天運不避 도시천운불피오니 生命路 생명로를찾을세라
신(申=死人失衣)씨가 암암리에 죽기를 소망하였으나 선한 자를 미워하면 망하고 성인을 해코지하는 자는 살지 못하리라. 장씨의 승배는 경자 신축에 있느니라. 장씨는 경자년에 정권을 잡으나 신축년에는 5.16으로 감옥으로 가는 신세가 되었다. 그러나 다음의 경자신축(2020-2021)은 중입으로 바르고 옳으니 길을 잃고 방황하면서 다른 곳에 가지 말고 부실증동(不失
死人失衣暗暗理 사인실의암암리로 怨無心 원무심을 所望소망이요 惡善者亡憎聖者滅 오선자망증성자멸 害聖者해성자는 不生불생이라 長弓勝敗白金鬚 장궁승패백금서우 中入正當 중입정당되오리니 失路彷徨不去 실로방황불거하고 不失中動 부실중동치자들소 辛臘壬三退却 신랍임삼퇴각하면 幸之幸運僥倖 행지행운요행일세 呼來逐出真人用法 호래추출진인용법 海印造化任意 해인조화임의라네 先天祕訣篤信 선천비결독심미소 鄭僉知 정침지는 虛僉只 허침지라 從風已去 叢叢이거사리지고 天下諸聖靈神合 천하제성령신합에

『新文化運動』(1919)의 1부 1장 2절

『新文化運動』(1919)의 1부 1장 3절


중(動) 즉 중입의 시기를 놓치지 말고 정도령을 찾아가서 불사영생의 진리를 배워야 하리라. 신(辛)년 음12월(臘)과 임(壬)년 음3월 즉 신랍임삼(辛臘壬三)의 운이 물러가면 행운 중의 행운인 요행일세. 불러 놓고 쫓아내는 진인(5도 묵운)은 사람들을 불러놓고 내쫓느니라.(6도 금운에게 가라는 속뜻을 모두 모르고 있다.) 6도 금운 정도령의 해인용범으로 말하자면 무궁한 조화를 마음대로 하느니라. 선천비결을 독신하지 마소. 정침지(鄭僉知)는 헛침지(虛僉只)라. 바림 따라 이미 갔다네. 천하의 모든 성스러운 신령들이 하나로 합하여 연화대 위에 신명세계를 펼치니 정도령이 오셨음이다. 천운은 절대로 피할 수 없으니 생명로(生命路)를 꼭 찾아보소.*
--

박명하 / 고서연구가
myunghpark23@naver.com
010-3912-5953

『新文化運動』(1919)의 1부 1장 4절

『新文化運動』(1919)의 1부 1장 5절

<b>당신을 영생의 세계로 안내하는 신문</b>
성금계좌 <span> </span> : 우체국 103747-02-134421 예금주 <span> </span> : 이승우
<b>승리신문은 독자님들의 정성어린 성금으로 만들어집니다</b>
<b>전국 각지에서 성금을 보내주신 분께 감사드립니다</b>

<b>승리신문</b>	1990.3.3 등록번호 다 - 0029
발행인 겸 편집인 김충만	
본지는 구세주(정도령, 미륵불)께서 말씀하신 사람됨이 실제로 죽지않는 원리(영생학)를 누구든지 쉽게 배우고 실천할 수 있도록 소개하여 질병과 죽음이 없는 개벽된 세상을 만들고 진정한 평화의 세계를 구현하는데 기여함을 목적으로 발행됩니다.	
경기도 부천시 소사구 안곡로 205번길 37 우 422-826	<b>광고 및 구독신청</b> 전화 032) 343-9985 FAX 032) 349-0202
홈페이지 <b>www.victor.or.kr</b>	
본지는 신문윤리강령 및 그 실천요강을 준수합니다.	

『新文化運動』(1919)의 1부 1장 6절

このように人間の肉体と精神は離すことのできない不可分の存在である。思っているように肉体も反応し、肉体の条件によって精神状態も時々刻々によって変わっていくのだ。
人間の生命は血の作用であり、血の作用は心の作用であるから、これ即ち、生命の活動を指しているのである。
考えてもみよ！
生きているということは心があるからであり、心があるということは即ち、生命があるという証拠である。「心＝生命」であるから体と心は離せない存在であり、靈と肉は分離することのできない一体のものである。
この問題についてより詳しく科学的に、また聖書的に説明することにする。

2. 血＝生命
人間の体は血で形成されており、血によって細胞が造成されている。胎児は母親の子宮内で母の血を受けて成育している。また、切り傷でもよく血が通うように包帯を巻いておけば、や가が裂けた肉が接合するようになる。これは肉が血で造成されていることを立証しているのである。血は即ち、人間の生命である。
聖書にも血はその生命と一体だと示している。創世記の9章4節には“肉は命である血を含んだまま食ってはならない”と記されているから、血が生命であり、生命自体が血であることは聖書にちゃんと記載されている。人間は血がなければ生きておられず、血が腐れば老いて病に侵されるのだ。血の作用が止まればすべての生命作用が止まるから、心臓が止まれば死亡診断を下すのだ。これは敢えて聖書で紐解かずとも 당연なことである。*

次の号に引き続き掲載
<span></span>
Subaru Kan / 新人類文化研究所長

격암유록 新 해설
<b>제111회</b>

## 末初歌 말초가

坊坊曲曲能坊曲  방방곡곡능방곡이요 是是非非定是非 시시비비족시비라 합합해해세 天地地支 천간지지 四九子丑 사구자축아니던가 四九辰巳革新 사구진사혁신으로 三軍烽火城遇賊 삼군봉화성우적을 軍政錯雜衆口錯針 군정착난중구검제 口是禍門滅身苦 구시화문멸신부라 善法 선법이면 好運時 호운시오 不法 불법이면 惡運時 악운시라 末世出人攝政君 말세출인섭정군들 當當正正 당당정정일치마소 阿差이차한번 失法실법하면 自身滅亡敗家자신멸양패가로서 全世界亂飛相火 전세계대란비상화로 天下人民滅亡 천하인민멸망일세
---

전국 방방곡곡에 시시비비가 시끄럽게 일어나게 되느니라. 천간 지지를 합해 보세. 사구(四九) 자축(子丑) 즉 경자(4.19혁명) 신축(5.16군사혁명) 아니던가? 사구진사(辰巳) 즉 신축년 진(辰=음3월), 사(巳=음4월)의 군사혁명으로 육해공군의 삼군이 봉화를 들고 서울에 들어와 부정부패한 도적들을 다치는 대로 처단하리라. 이어 군정이 여러 가지 시행착오로 어려움을 겪게 되고 언론을 통제하며 입에 재갈을 물리게 되니 입을 함부로 열면 화를 부를 것이요 그 입을 몸을 찌는 도끼와 같게 되느니라. 군사정권이 선한 법으로 다